

令和5年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 () は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
1 GIGAスクール構想による1人1台端末の効果的な活用に取り組み、生徒のより能動的な学習を推進する。	① 授業や学校環境のユニバーサルデザイン化という観点を踏まえ、生徒の基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	B 96.6% (96.9%)	全ての教職員が、一人ひとりの生徒に対して、理解状況を把握しながら丁寧に授業実践している。そのため、ほとんどの生徒が「授業がわかりやすい」と、授業内容や教員の指導に対して肯定的である。今後もさらに生徒の興味関心を高める工夫を行うとともに、基礎学力向上に取り組んでいく。
		授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと答えた教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 75.0% (100%)	昨年度より、25.0ポイント下がってしまったが、一人ひとりの生徒に応じた丁寧できめ細かな授業が実践出来ており、生徒の授業満足度は高い。次年度に向けて、個々の生徒への適切な対応はもちろんのこと、見通しを持って学べる学習環境の構築を推進していく必要がある。
		定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学した回数の平均が A 8回以上 B 6回以上 C 4回以上 D 4回未満	C 4.8回 (3.4回)	生徒の主体的学習を目的とした授業実践を学ぶために県内定時制高校の公開授業に参加している。また年間2回の互観週間を実施した。今年度は、校内外でのChromebookを活用した互観授業が多く実施され、効果的利活用について資質向上を図ることができた。
	② 1人1台端末の効果的な活用に向けて、ICT機器を活用した工夫された授業を展開し、生徒の学習効果の向上を目指す。	Chromebookを効果的に利活用した授業を行なった教員の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	A 75.0% (44.4%)	ICT支援員による校内研修でChromebook活用は全員ができるようになった。昨年度に比べ30.6ポイントも上がり、生徒の主体的学習を目的とした授業での利活用状況が向上した。次年度に向け、より様々な場面において効果的な利活用ができるように取り組んでいかなければならない。

学校関係者評価委員会の評価	・Chromebookを活用した授業が活発に行われているが、どんな取り組みを行ったのか。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方法	・Chromebookを活用した授業づくりに関する校内研修を定期的に行った。次年度も引き続き研修等を行い、教員ICT機器の利活用を進めたい。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 () は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
2 総合的な探究の時間を中心とした地域学習の実践により、生徒の自己肯定感を高め、充実した学校生活を送れるよう支援し、社会人として必要な人間力の育成を図る。	① 日々の声掛け等の、粘り強く地道な指導を続け、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	欠席・遅刻をしないように努めている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 食事を通して身体的な健康維持ができていると回答した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	A 87.5% (78.9%) C 56.3% (47.4%)	授業での生徒への声掛けと1ヶ月ごとの皆勤者表彰を行うなど、欠席・遅刻をせず、時間を守ることの大切さを全教職員で指導している。授業や学校行事にきちんと参加することへの意識を高めることで、生徒の基本的な生活習慣が確立された。 規則正しい食生活が出来ていると答えた生徒は56.3%と半数を超え、年々改善されている。これからも「ほっかほかタイム」等の食育を通して、身体的な健康維持のために食事の大切さを日々伝えていく必要がある。
	② いじめを含め問題を抱える生徒の早期発見と支援を行い、問題行動の未然防止を図る。	支援連絡会やいじめ対策委員会を通して、生徒の現状を理解し、支援ができていると評価する教員が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	A 100% (100%)	先生が親切に相談に応じてくれると答えた生徒は87.5%、保護者は86.6%である。月1回以上の生徒支援連絡会を開催するなど、今後も個々の生徒理解に努め、教職員間で情報共有を密に行い、全ての生徒が安全安心な学校生活を送れるように取り組んでいく。
	③ 総合的な探究の時間等で生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践する。	充実した取り組みができたという回答した生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 75.1% (100%)	生徒の興味関心に応じたグループごとの活動を行ったが、一部やや消極的な生徒がいた。今年度も、保護者・地域住民と連携した地域学習を目的として「蓮如道に行く」を実施した。参加してよかったと答えた生徒は90%であった。非常に充実した取り組みとなった。
	④ 地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動を実践する。	地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動に参加した生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C 43.8% (52.6%)	「大聖寺町中クリーン作戦」（町内清掃）を実施出来た。聖城祭には、保護者だけでなく近隣住民の方にも参加を案内したが、今年度は近隣からの参加がなかった。次年度も、学校行事や総合的な探究の時間を通して、高校生の視点から地域貢献の重要性を、機会をとらえて伝えていく。

学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none">・聖城高校は、行事が多種多様で多く生徒にとってはとても良い経験になっている。生徒がやってみたいという要望をいかに引き出していくのか、これからも継続し、高めていただきたい。・健康維持に関して、朝ご飯を食べない、お昼をコンビニで済ますという生徒もいる。保護者と相談して少しでも直す機会があったら良い。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方法	<ul style="list-style-type: none">・生徒に教えるということよりも、刺激を与え、生徒のちょっとした変化を見逃さずにその思いを拾っていくような取り組みを行っていく。・食育サポーターの先生が実施する「ほっかほかタイム」の取り組みが、生徒自らが食事を考える良い機会となっているため、次年度も継続していきたい。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 () は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
3 生徒の能力や特性に応じた個別の支援計画を作成、共有、活用することで多様な生徒の進路実現を目指す。	① 生徒が、自己の能力・適性を理解し、学習意欲の向上を図れるように、資格取得に向けた指導を行う。	検定・資格取得・コンクール出展に取り組んだ生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	D 33.3% (42.9%)	漢字検定には4名が受験して、合格者はいなかった。加賀ふるさと検定には3名が受験して1名が合格した。全商簿記検定には2名が受験して2名が合格した。資格取得に取り組む生徒が年々減少しているが、今後も生徒に自信を持たせるために、検定受験を積極的に促し、合格に向けて意欲的に取り組ませる必要がある。
	② 卒業までを見通した指導計画に基づき、生徒各人の能力・適性に応じた支援・指導を行う。	自己の進路に関する関心が高まったと回答した生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 87.5% (89.4%)	定通企業ガイダンスだけでなく、「先輩と語る会」や市内企業見学の実施など進路セミナーを、6・7月に集中的に実施することで、自分の進路に対して関心が高まった。今後、一人ひとりの進路実現に向けて、授業や面談を通して支援を綿密に行っていく。
	③ ハローワークや地域の企業等と連携して、生徒の就業の支援・指導を行う。	就業率（アルバイトを含む）が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	D 37.6% (52.3%)	まずは学業を優先させ、単位の取得に努めさせる。その中で余裕のある生徒に対しては、ハローワークや地域の企業等と連携し、生徒の自己実現や社会貢献の観点から、アルバイトを含む就業率を上げるよう取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価		・アルバイトをするために学校に来られないのは少し違う感じがする。まずは学校に来て卒業し就職させるべきである。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方法		・生徒の就業支援に関して、まずは学校にきっちり登校する習慣をつけさせる取り組みを行っていく。「進路セミナー」「企業ガイダンス」など、行事等を通して自分に自信を持って自立した社会人となるような取り組みを継続していく。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 () は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
4 校務分掌の適切な割り振りや業務の平準化を進め、教材研究や生徒理解の充実を図る。	① 職員間の横の連携を強め、積極的に協働し、生徒理解に取り組む時間を確保する。	個々の生徒について、より理解が深まったと感じる教員が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	B 88.9% (80.0%)	本校は校務の平準化を図るため、1人の教員が複数の校務分掌を担当している。そのため、複数の教員が協働し、職員間の横の連携が十分に図られている。このことで、時間外労働時間が減少し、生徒と向き合う時間が確保できたことが生徒理解に繋がっている。
学校関係者評価委員会の評価		・教員同士で校務を分担し、平準化を図っており、生徒と関わる時間が確保できている。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方法		・一人の教員が複数の校務分掌を担当し、互いに助け合いながら、職員間の連携を図っていく。		